

満作 まんさく



豊作のことを「満作」とも言いますが、春先に咲くマンサク科の意味もあり、真っ先に咲くから「まず咲く」という語源もあると。豊年満作の祈りを込めて「満作」と書くようになったそうです。

春の訪れの喜びとともにあふれる満作に、私たちの生産する九条ねぎも実り多い一年でありますように、と願います。



一日の日照時間が少し長くなって、いよゝを畑で感じていきます。あたたかい気配に誘われて虫たちが活発になったり、草なども勢いを増す頃、色々なものヤトが生ま生きました春。

毎年春は、ねぎに大切な土台である土作りや、苗を準備する播種作業など、何かと作業が盛りだくさんな季節。また、来月には新しい農人たちも仲間に加わるので楽しみです*

古都・事・言 3つの「こと」を伝えます
ことねぎだより

NO.154

2020年3月号

TEL: 075-601-0668

こと京都株式会社

春葱

今月の

ことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語(事)を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

お待たせしました、春葱のお届けが始まりました

3月からは、主に京都市内の圃場で育ったねぎをメインにお届けしています。

年末にかけて被覆を行い、京都の凍てつく寒さから大事に守られたねぎたちです。

今回は暖かい日が続いたこともあり、予想以上に生育スピードが早く、2月中旬に被覆を空けた頃には既に立派に成長していました。

冬が明けてすぐなので葉肉の厚さも程よくあります。春を迎えた喜びとともにご賞味ください。



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業!の現場の「こと」を発信

冬の振り返り、毎年異なる盆地の状況

今年は暖冬となり、例年は雪が多く積もる美山でも一度雪が降ったのみ、亀岡も雪はほとんど降らず、霜害の影響もありませんでした。

また、圃場周辺で春の花が早い段階で咲いているのを見つくと、改めて暖冬だと感じるとともに、今後こういった気候が当たり前になるのかなあと考えさせられます。そういった変化に対応する難しさも感じながら、安定供給できるようにと日々の管理作業を行っています。



冬の期間に活躍する被覆資材を回収しています

いつもより早いねぎ坊主

2月中旬から、京都市内の圃場ではちらほらねぎ坊主が出てきました。農人たちからは嫌われ者のねぎ坊主も食べられないものではなく、昨年から商品化に取り組んでおり(実際に鍋セットに使われました!)今年には昨年の2倍の量を収穫予定。通常の収穫に比べると大変ではありますが、



新たな可能性にチャレンジしていきます!

←九条ねぎが主役の鍋セットです

